

第三回

平成二十八年度
がん川柳集

がん川柳五・七・五

がん患者の思いを川柳にのせて

独立行政法人 国立病院機構

大分医療センター

もくじ

もくじ	1	がん川柳作品	11
刊行にあたって		患者さんの句	11
		家族の句	19
		支援者の句	25
		その他	29
院長 あいさつ	2	〜第二回がん川柳集を読んで	
		皆さんの声	34
副院長・連携室長 あいさつ	3	〜がん患者の思いを川柳にのせて	
		がん川柳の啓発活動	36
緩和ケアチームリーダー あいさつ	4	あなたの一句を	39
		おわりに	40
優秀作品	5		

刊行にあたって



院長
室 豊 吉

がん川柳五・七・五がん患者の思いを川柳にのせての小冊子刊行も第三回となりました。第二回も第一回に劣らざ好評で、院内は自由に持ち帰られるようにしましたし、院外からの希望も多々ありました。そして平成二十八年度も「がん川柳」を募集しましたところ、全国津々

浦々から多数の作品が寄せられました。いざれ劣らぬ素晴らしい作品ばかりで、「がん」への思いに胸がたまされました。そして、今までの実績のおかげで、NHKテレビの取材をうけ、平成二十八年十一月にまずは大分で、そして九州で、さらに十二月には全国での放映となりました。当院の試みが全国放送されたことは光栄であり、また誇らしく思います。当院の実績が影響してか、いくつかの医療機関が、同様に「がん川柳」を開始しているとのことです。二人に一人が罹る「がん」ですが、この小冊子を手にした方々へ、少しでも勇気と希望を与えることができ、「がん」への思いを共有できれば幸いです、切に願います。



副院長・連携室長
穴井 秀明

今回で、このがん川柳集も三回目となります。当院のがん相談支援センターが發起人となって取り組んで早三年が経ちます。全国各地からたくさんのご応募をいただき誠にありがとうございます。先日、このことが地元のTVのニュースで取り上げられました。私達、医師は病院では、患者さんの一面しか見ることが出来ません。

TVでは家庭や仕事場など患者さんが実際に生活している現場が放映されています。その川柳がどういう環境や気持ち、動機で出来たのが、良く理解でき、さらに共感できました。

がん川柳は人生の一大事を川柳という短い言葉にさらりと置き換え、泣き、笑い、怒り、皮肉、訴えなどが詰まった叙情詩だと思えます。応募された方自身も、このがん川柳集を手にとってみて同じ境遇の方の気持ちを共有し、共感でき、がんに関わり勝つための良薬になるのではないかと推察します。

最後に、応募していただいた患者さん、ご家族の皆さんと当院のがん相談支援センターに感謝とお礼を申し上げます。皆さんどうぞ一読ください。



緩和ケアチームリーダー
高祖英典

「がん川柳集 がん川柳五・七・五」も三巻目の発刊となりました。がん川柳にご応募いただきました患者さん・ご家族・支援者の皆様に感謝申し上げます。皆様のご支援があつてこそその発刊であり、今年も前年に引き続き発行できましたことを私たち緩和ケアチームとして大変

嬉しく感じております。ご応募いただきました一旬一旬に込められた思いは非常に深く、時に我々医療者がはっと気づかされることも多々ありました。そういった思いを我々は取りこぼすことなく十分に受け止め、支えていけるように努力する次第です。三回を重ねましたがん川柳ですが、幸いにして各方面からの反響も増えてまいりました。当院では今後も引き続きがん川柳の取り組みを続け、当院のみならず全国のがん患者さんやご家族・支援者の皆様の支えとなることを目標にいたします。皆様のさらなるご支援をよろしくお願いいたします。

優
秀
作
品

優秀作品賞

癌と知り

詫びる乳房が

愛おしい

大分県

●作者からのメッセージ

癌体験をした生徒さんに勧められ乳癌との診断、早期発見を喜びました。手術前二人の息子を母乳で育て主人も送り女の勤めも果した乳房を摩りながら「癌になってごめんね」と互いに詫び別れを告げそっとケータイに収めた実感句を詠みました。

優秀作品賞

一人じゃない

一緒に戦う

人がいる

島根県

●作者からのメッセージ

がんになったほとんどの方は悲しみに打ちひしがれて、不安を抱えておられることと思います。

でも、大丈夫です。心から心配して支えようとする家族と、医師と看護師、身の回りのお世話をするスタッフが傍にいます。ひとりで戦おうとするのではなく、まわりにいる大勢で戦う姿勢でどうか挑んでください。

優秀作品賞

いつか死ぬ

それがたまたま

癌なだけ

はぐれ雲

●作者からのメッセージ

重い状態の告知を受け、どう考えるか悩みました。まず、明るく過ごすため「なぜ、私が」と考えないようにしました。考えても意味がないと思います。

また、永遠に生きる人はいませんし、たまたま癌で死ぬと思うようにしました。

優秀作品賞

がんを
知り

がんと
向き合
い

已知
る

埼玉
県

優秀作品賞

子どもらに

生き方しめす

強き母

大阪府

患者さんの句

告知にも

動じぬ僕に

医師の顔

香川県 みぢんこ

癌に克つ

日進月歩の

医療得て

宮崎県

がんになり

家族に愛され

日々感謝

大分県

宣告後

命の重み

肌で知り

愛知県

転移する

おそれ火山を

抱いている

兵庫県 かわちやん

がん治療

相手にとって

不足ナシ

徳島県

がん治療

生活見直し

やり直し

富山県

祈られて

奇跡起こして

今感謝

愛知県

ガン告知

病室^{へや}で先輩の

講義受け

大分県

朝目覚

今日も一日

がんばるぞ

大分県 ガンバロー

朝起きて

今日も生きてる

ありがたさ

大分県

術四年

心配事は

PSAなり

大分県 ナダ

憎いがん

身の毛がよだつ

早期発見

大分県

検診で

要検査と聞き

よぎる癌

千葉県
でこぼん

がん告知

受けて優しさ

取り戻す

富山県

手術台

組板の鯉

横たわる

福島県
永遠の少年

癌よりも

近づくこわさ

物忘れ

大分県 寅次郎

がん告知

されて変身

神頼み

東京都

手術台

観念したが

目に泪

大分県 いなっしー

妻見舞い

ついでに受診

闘告知

大分県 ガントール

人並みに

来てくれました

告知あり

神奈川県

花びらで

術するしない

うらなう夜

千葉県

この命

まだ救えると

神にぞ祈る

岡山県

我ががんよ

さつさと出てゆけ

この身から

大分県 洋子

がん川柳五・七・五

読んだ私も

膀胱がん

大分県 F・S

がんになり

がんを飛ばしつ

願を掛け

愛媛県

これまでの

生きた証を

誇りにし

大分県

家族の匂

俺もかと

腹を括った

夜だった

大阪府 ゆうゆう

癌に効く

飲み物作る

願い込め

大阪府

度胸良き

がん病む妻の

突破かな

愛知県

ガンよなせ

夫にばかり

すがりつく

大分県

ガン転移

妻をきづかう

夫の声

大分県 プリン

恐れるな

悔るなかれ

がん告知

大分県

医者ぎらい

今度ばかりは

頭下げ

大分県

癌発症

祖母の読経は

柔くなり

千葉県

検査日に

涙の量は

測られず

岐阜県 清流

退院後

みんなで食べた

カップ麺

栃木県 星野典比古

我^ア娘^コやみて

我かわりたし

老に鞭打つ

大分県 きよ

ありがとう

貴方の笑顔

忘れない

大分県 兄ちゃん 大好きっ子

再検査

何も悪いよと

祈る私^{ヒト}

大分県

病床の

母は笑顔で

さようなら

大分県
りく



支援者の句

がん恐れ

検診嫌う

心のがん

兵庫県

皮膚がんを

ほくろ思うな

医師だから

京都府

闘病の

二人で見てる

青い空

兵庫県

限りある

命の中に

光るもの

兵庫県

壮絶な

闘いだった

十五年

奈良県

がんなれど

最後の炎

友は燃え

兵庫県

がんになり

告知せず生き

大往生

宮崎県

癸病後

しぶとく生きて

いる便り

東京都

病院の

みんながあなたの

応援団

東京都



そ

の

他

だいじょうぶ

特効薬が

進行中

静岡県 春爺

ピロリ菌

見つけて退治

もう安心

大分県

諦めず

巨大な壁に

立ち向かい

千葉県 江戸川散歩

一人じゃない

一緒に戦う

人がいる

島根県

がん告知

自分を見直す

きっかけに

島根県

がん知らず

がんにかかって

がんを説く

滋賀県

まず検診

がん撲滅の

第一歩

埼玉県 氷川の杜

がん検診

終えて笑顔で

帰宅する

佐賀県 スーツぱぱ

身の内の

がんと戦う

和顔

奈良県 よもやま話

おいしいと

思えることが

プレミアム

大分県 婚活難民

がん治療

弱気の虫を

まず退治

東京都 ゆりこ

がん治療

リニアを抜けと

願う日々

京都府 ひねた猫



を読んで 皆さんの声～

この冊子を手を取った時、どんな苦しみを詠ったものだろうと身構えて読みはじめました。しかし、がんと戦う患者様の句はジョークもあり、楽しい句がほとんどで、私は元気を頂いた気がします。家族様の句はとても温かくとても優しい気分になりました。私の父もがんで二年前に亡くなりました。仏壇の前に置いてあげようと思います。 (家族の方)

各々の立場から川柳が出品されており大変(いろんな意味で)良いと思います。ずっとずっと続く事を祈っています。 (家族の方)

「がん川柳集」を読まさせて頂き涙したり、笑ったり、勇気づけられたりと感慨深いものがありました。終活に向かっている我が身に置き換え、今後の道しるべにしたいと思いました。 (がん患者さんの知人)

いくつかの川柳を拝読して意識が変わりました。いつだって、人は心に光を持っているだけ。心の底を覆い隠さず照らしてあげることで、自分でも分からなかった素直な感情が表出できるのですね。お互いのがんサロンなどで語り合う場も必要だと思いますが、そこで上手く語れない方や聞くこと自体が辛いという方にも支えてくれるのではないかと思います。私の病院の外来フロアにも掲示し患者さんに見てもらえるように配置させて頂きます。 (支援者)

患者・家族にしか感じられない思いを知れて今後のケアに活かしていきたいと強く思いました。生きていくってすごいことなんだと、健康でいることって幸せなことなんだと思いました。 (支援者)

医療者の私達にも勇気を与えてもらいました。 (支援者)

～第二回がん川柳集

拝読させて頂き感銘を受けました。患者、家族、支援者のそれぞれの立場から想い（思い）の文を切々と見事に綴られております。改めて家族の絆の強さと素晴らしさを感じました。（患者さん）

ちょうどこの川柳募集～院内外来フロアに掲示した折、自分は乳がん手術を受け家族には大丈夫の笑顔を作らなくてはと気持ちに返して、ひとりで重さを受け止めていた頃。みなさんの川柳で同じ思いを見つけ安心しました。家族には見せる事の出来ない（感謝のあまり主人や子どもに心配かけたくない）自分の気持ちを出せる場所です。ありがとうございました。（患者さん）

がんというものを敵として闘っている身でありながら、時に深刻に時にユーモアを交えた川柳の力によって、不思議と少々楽な気分になりました。（患者さん）

患者の一人として、闘病の元気を与えてもらいました。（患者さん）

がんに対する心意気がよく表れたとてもよい川柳ばかりで大変よかったです。私はがんの手術を受けて二年半になりますが、疲れたときは繰り返し読んでみたいと思います。（患者さん）

を川柳にのせて～ 啓発活動

がん川柳表彰式



リレー・フォー・ライフ大分
2016



～がん患者の思い がん川柳の

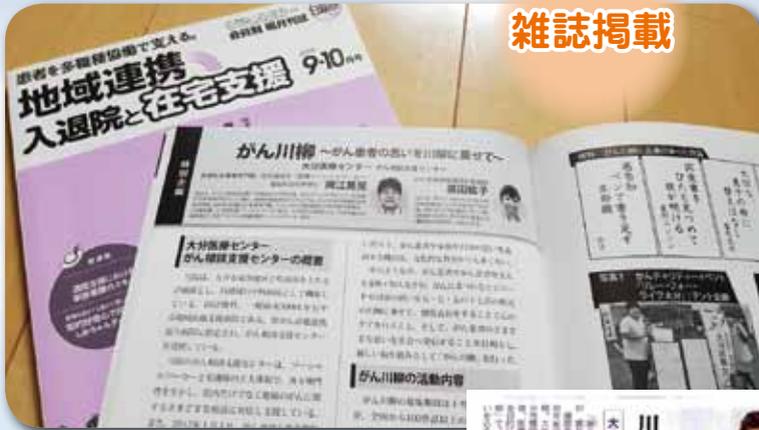
TV放送



外来フロア掲示



雑誌掲載



新聞掲載



海外発表



あなたの一句を



日付 (/ /)

おわりに

最後まで読んで頂きありがとうございます。
全国から集まったがん川柳を通じて、皆さんはどのようなことを感じたでしょうか。

このがん川柳集冊子は今回で三回目となります。
がん患者さんやがん患者さんを支えている家族、
知人・支援者等が、がんにまつわるエピソードや
日頃の思いを、五・七・五の形式の川柳にの
せて、感情表出を行い心のケアを行うことやがん
川柳の思いを地域・社会へ発信し、がん患者さん
等の思いを共有することを目的に、二〇一五年
三月に第一回目ががん川柳集を発行しました。
院内配布・掲示は勿論のこと、がんチャリティー
イベントやがんサロンや一般書店等での配布、図書
館での設置、テレビや新聞等の様々などところで発
信することができ、がん川柳を通して多くのがん
患者やがん患者を支えている家族、知人、支援

者の方々と『がん』の思いを繋いでくれました。
そして、この度三回目となる平成二十八年度がん
川柳集が無事発行できたことを嬉しく思います。
本冊子も多くの方々に『がん』の思いを共有でき
ることや皆さんの心の支えになってくれることを
願っています。

最後に、本冊子をつくるにあたり、ご支援して
下さったがん川柳を応募してくれた方々やがん
サロンに参加してくれた方々、がん川柳に触れ
共感してくれた方々、そして病院のスタッフ等に
厚くお礼を申し上げます。

がん相談支援センター

ソーシャルワーカー

岡江晃見
看護師 廣田 紘子

第三回

平成二十八年年度

がん川柳集

がん川柳五・七・五

がん患者の思いを川柳にのせて

発行日 二〇一七年三月三十一日

発行・編集 独立行政法人 国立病院機構

大分医療センター

大分市横田二丁目十一番四十五号
電話 〇九七―五九三―一一一

